fungi: the tetraradiate spore. Biol. J. Linn. Soc. 7: 1-25. Marvanová, L. 1973. Notes on *Lateriramulosa uniinflata*. Trans. Brit. mycol. Soc. 60: 145-147. Matsushima, T. 1971. Microfungi of the Solomon Islands and Papua-New Guinea. 78 pp. Kobe. —— 1975. Icones Microfungorum a Matsushima Lectorum. 209 pp. Kobe. Miura, K. 1974. Stream spora of Japan. Trans. mycol. Soc. Japan 15: 289-308. —— & M. Y. Kudo. 1970. An agar-medium for aquatic Hyphomycetes (in Japanese). Trans. mycol. Soc. Japan 11: 116-118.

* * * *

東京都日原の渓流中の腐葉から得た水生不完全菌類の一新種 *Lateriramulosa quadriradiata* を報告する。*Lateriramulosa* 属の各種はいずれも陸上の腐葉から記録され，分生子は1箇の主軸細胞とこれより順次形成された3側枝とからなり，全体は平板状をなす。本種は，第2側枝が基部で分枝して全体はテトラポッド形をなすという顕著な特徴をもつものの，分生子の基本構造・分生子型・分生子発達過程の点で *Lateriramulosa* 属のタイプ種と一致する。本種は水生不完全菌類の四射形分生子の発達パターンに新しい型を加えるものと思う。先に未記載菌の分生子として礼文島から報告されたもの（三浦，1974, Type 73）は，恐らくは本種のものであろう。

□Heywood, V. H. (ed.) **Flowering plants of the world.** 335 pp. 1978. Oxford University Press, Oxford. ¥4,290. Heywood が主となり，英国系の分類学者を主とした40数名，八ケ国の学者が協力して作った，全顕花植物の分類系の図譜兼一覧図ともいえるものである。全体のシステムは Cronquist (1968) の流れをくむ Stebbins (1974) のシステムを，さし当りの標準としているが，双子葉類を6個の群に，単子葉類を4個の群に大別している。はじめに用語集を主にした総説をかかげ，ついでモクレ科からはじめて各科毎に述べられている。大部分の科毎に，科の大綱，分布，標徴的な形質，分類，利用面を述べ，半ページの2-3種の図が添えられている。これらはほとんど部分的な彩色図である。さらに小さい分布図に添えて属種の数，分布，及び利用の荒すじをかこんで出してあって，それが著るしく目立っている。図は Goaman, Dunkley, King に三女性が描いたもので中々風韻がある。小数の科はページ大の図1〜2とするなどしているが，大部分は半分の大きさなので，どうしても精緻を欠く憾みがあるのは惜しい。何といっても地図に分布地を赤く示したのは，恐らくはじめてで大変注目をひくものであり，色々と役立つと思われる。たとえば，コーカサスから中央アジアを経てオホーツク海まで，ラン科が分布していない図になっているなどまことに意外であるし，ドクウツギについては前川の議論に全く触れていないなども気になる。いずれにせよ新らしい論議をひき起しうる出版物として大いに注目に値するであろう。（前川文夫）